

Contents

『予測』と『対策』
今こそ備える南海トラフ地震

- ・交通安全工事関連用品 ～トルメータースーパー～
- ・クイックシート 溶融タイプ 受取り後のお願い
- ・クイックシート 溶融タイプ 施工直前の注意点

『いつか』に備えて
『今』できること



最新シート施工例情報、業界情報、当社製品情報などをお知らせしている「サンコーメールマガジン」や「サンコーニュース」など、メール配信版もご希望される方は、左のQRコードよりご登録ができます。

『予測』と『対策』

今こそ備える南海トラフ地震

南海トラフ地震とは、静岡県の沖から九州の東側にかけてある「南海トラフ」と呼ばれる場所で起きるといわれている大きな地震のことです。この地震が起きると、マグニチュード 8～9 の超巨大地震になる可能性があり、広い地域で強い揺れと津波を引き起こすとされています。

南海トラフとは？

南海トラフとは、日本の南の海底にある、長い“くぼみ”のことです。静岡県の沖から四国や九州の南の沖にかけて、約700km以上にもわたって続いています。

この「くぼみ」では、2つの大きなプレートがぶつかり合っていて、大陸側の「ユーラシアプレート」に海側の「フィリピン海プレート」が沈み込むことに伴うひずみによって、その力が何十年も溜まっています。



なぜ今 南海トラフ地震に注意が必要なの？

南海トラフ地震は100年から150年おきに発生しているといわれており、前回の発生した1946年の昭和南海地震からすでに約80年近くたっているため、最近の研究では今後30年以内に70～80%の確率で起きるとされています。

地震はいつ起こるか分かりませんが、「必ず来る」と言われている災害です。だからこそ「今」から備えておくことが大切なのです。

1707年：宝永地震

日本史上最大規模級の地震で、直後の富士山噴火（宝永噴火）との関連が指摘されている。

▼ 147年後

1854年：安政南海地震

前日に発生した「安政東海地震」に連動して発生したといわれており、連動型巨大地震の典型的な事例である。

▼ 92年後

1946年：昭和南海地震

戦後問もない日本を襲った大地震。地震計による観測データがあり、科学的に詳細な分析が初めて可能となった南海地震。

▼ 79年後

2025年：現在

今後30年以内（1946年から150年以内）に70～80%の確率で、再び南海トラフ地震が起きるといわれている。

想定される地震と津波の規模は？

南海トラフ地震は、東海から九州にかけての広範囲に大きな被害をもたらすとされる巨大地震で、強い揺れだけでなく、津波・火災・インフラ寸断など、私たちの生活にあらゆる影響を及ぼす可能性があります。万が一のときに命を守るためには、正確な情報を知り、日ごろから備えることが重要です。以下では、政府の最新想定に基づき、主な被害の概要を紹介します。

地震

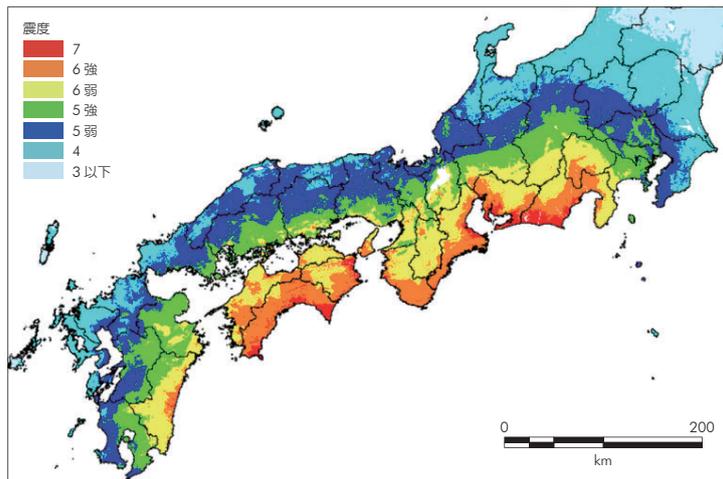
政府の想定によれば、南海トラフ地震が発生した場合、静岡県から宮崎県にかけての沿岸部で震度7の激しい揺れが広範囲に及ぶとされています。

隣接地域でも震度6強～6弱の揺れが想定されており、都市部を含む多くの地域で生活や社会機能に深刻な影響を及ぼす可能性があります。

また、交通網や電力・ガス・水道といったライフラインも広域で途絶し、復旧に長期間を要することが見込まれています。

こうした事態に備え、平時からの防災対策や情報共有、企業・家庭での事前準備が極めて重要です。

中央防災会議防災対策実行会議：「報告書 説明資料」より



津波

南海トラフ地震に伴う津波は、太平洋沿岸の広い範囲で発生し、高知や静岡などでは10～30メートル超の津波が到達する恐れがあります。

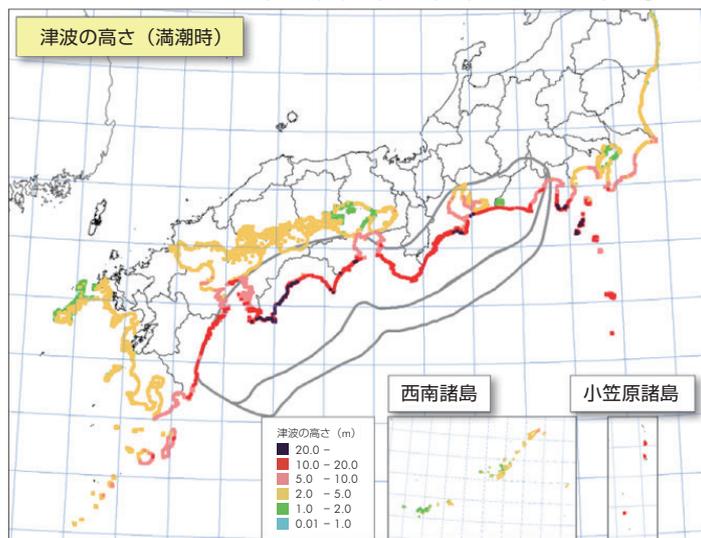
津波による浸水は31都府県の764市町村に及び、短時間で海岸線に押し寄せることから迅速な避難が不可欠です。

津波による死者数は最大で23万人に上るとされ、多くは津波発生後の避難の遅れが原因と想定されています。

政府は、津波避難ビルや高台への避難路の整備を進めるとともに、警報発令後ただちに避難を開始する「自助」の意識づけを強化しています。

日頃の訓練が被害軽減の鍵となります。

中央防災会議防災対策実行会議：「報告書 説明資料」より



予想される被害とは？

中央防災会議防災対策実行会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループは、令和7年版として、最新の知見に基づいて推計手法の見直し等を踏まえて被害想定を見直しました。

中央防災会議防災対策実行会議：『報告書 説明資料』より

	H26 基本計画	R7 被害想定
死者数	約 21.9 万人～約 33.2 万人 (早期避難意識 70%) (早期避難意識 20%)	約 17.7 万人～約 29.8 万人 (早期避難意識 70%) (早期避難意識 20%) ※地震動：陸側、津波ケース①、冬・深夜、風速 8m/s
建物倒壊	約 9.3 万人	約 7.3 万人
津波	約 11.6 万人～約 22.9 万人 (早期避難意識 70%) (早期避難意識 20%)	約 9.4 万人～約 21.5 万人 (早期避難意識 70%) (早期避難意識 20%)
地震火災	約 1.0 万人	約 0.9 万人
全壊焼失棟数	約 250.4 万棟	約 235.0 万棟 ※地震動：陸側、津波ケース⑤、冬・夕方、風速 8m/s
揺れ	約 150.0 万棟	約 127.9 万棟
津波	約 14.6 万棟	約 18.8 万棟
地震火災	約 85.8 万棟	約 76.7 万棟
電力（停電軒数）	最大 約 2,710 万軒	最大 約 2,950 万軒
情報通信（不通回線数）	最大 約 930 万回線	最大 約 1,310 万回線
避難者数	最大 約 950 万人	最大 約 1,230 万人
食糧不足（3 日間）	最大 約 3,200 万食	最大 約 1,990 万食
資産等の被害	約 169.5 兆円	約 224.9 兆円
経済活動への影響	約 44.7 兆円	約 45.4 兆円

※災害関連死者については、過去災害（東日本大震災の岩手県及び宮城県）及び能登半島地震の実績に基づいて想定した場合、最大約 2.6 万人～5.2 万人と推計（上記死者数には含まれない）（過去に類を見ない被害規模かつ超広域にわたって被害を生じると考えられる南海トラフ地震では、過去災害でみられるような外部からの応援等が困難になる事が考えられ、発最後の状況によっては、被災地が十分な支援を受けられずに、災害関連死の更なる増加につながるおそれがある。）

※ケース①：「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定した場合、ケース⑤：「四国沖～九州沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定した場合

改善（被害軽減）した点

■ 死者数と全壊棟数の減少

地震や津波高さのモデルの詳細化を踏まえた結果、死者数は最大約 33 万人から約 29.8 万人へ、全壊棟数は約 250 万棟から約 235 万棟へと減少しました。

■ 耐震・家具固定対策の効果

家屋の耐震化や家具固定などの取り組みにより、人的被害の削減効果が明確になり、災害対策の意味が裏付けられました。



悪化（拡大）した点

■ 津波浸水域の広がり

高精度地形・地盤データの反映により、津波 3m 以上の浸水予測地域が広がり、家屋の全壊予測が約 14.6 万棟から約 18.8 万棟へ増大しました。

■ 社会・インフラ影響の増加

被災想定地域が拡大し、より現実的な避難行動や高精度データが反映されたことで、停電や通信障害など社会インフラへの影響が増加しました。



南海トラフ地震に備える防災対策とは？

南海トラフ地震は、広い範囲に甚大な被害をもたらすおそれがあります。被害を減らすために、政府や自治体はさまざまな対策を進めていますが、私たち一人ひとりの備えも欠かせません。公的な取り組みとあわせて、家庭でできる具体的な対策について考えてみましょう。

政府・自治体が行っている対策

■ ハードの対策（施設・インフラ）

津波避難施設の整備

高台や避難タワーの建設

堤防・防潮堤の強化

津波の浸水範囲を減らすための沿岸防御

公共施設の耐震化

学校・病院・役所などの耐震補強

ライフラインの強化

電気・水道・通信などの冗長化や耐震対策

■ ソフトの対策（制度・情報）

南海トラフ地震臨時情報の発信

前兆的な異常を捉えた際に警戒を呼びかけ

ハザードマップの作成・配布

津波・地震などのリスクを地域別に可視化

地域の避難訓練の実施

住民参加型の訓練を通じて行動力を高める

災害対策基本法の整備

災害時の迅速な対応・指示の法的枠組みの整備

家庭でできる対策

■ 命を守るための備え

家具の固定

転倒防止器具で家具を壁に固定

非常持ち出し袋の準備

水・食料・救急用品・現金などをリュックに常備

家族での安否確認手段の共有

災害伝言ダイヤル（171）や集合場所の確認

避難経路と避難場所の確認

徒歩での避難ルートを事前に歩いて確認

■ 生活の継続のための備え

飲料水や食料の備蓄

最低3日分、できれば1週間分を家庭に保管

携帯トイレや簡易トイレの準備

断水時に備える

モバイルバッテリーの確保

情報収集や連絡手段の維持のため

保険（地震保険）への加入検討

住宅被害への備え



真偽不明な情報に注意 !!

災害時にはネット上に多くの情報が流れますが、中には誤情報やデマも含まれています。南海トラフ地震のような大災害では、そうした情報に惑わされると避難を誤る危険も。

日頃から気象庁や自治体など公的機関の情報を確認する習慣をつけ、信頼できる情報源を家族で共有しておくことが大切です。



路面標示を用いた防災対策とは？

災害時は、「どこが危険か」「どこに避難すればよいか」「どう避難するか」を事前に知っておくことが重要です。また、地域住民だけでなく旅行者や外国人にも分かりやすく知らせる必要があります。路面標示を設置することは、防災・減災に役立つ有効な手段の一つです。

路面標示のメリット（災害時の避難誘導における利点）

■ 視認性が高い

地面に直接描かれており、足元を見るだけで避難方向が分かりやすく、パニック時にも直感的に行動できます。

■ 情報を伝えやすい

矢印やピクトグラムなどの記号で、外国人・子ども・高齢者など、誰にでも伝わりやすい誘導案内が可能です。

■ 日常的に意識付けができる

普段から地域に溶け込んで使えるため、緊急時だけでなく日常から意識づけができます。



これからの避難誘導に求められること

■ 多様な利用者への対応

ユニバーサルデザインの観点から、多国語表記やピクトグラムのグローバル化などにより、障害者や外国人観光客などの、多様な背景を持つ人にも理解できる表示が求められます。

■ 地域ごとに応じたカスタマイズ

津波、土砂災害、洪水など、地域ごとの危険性に応じて避難ルートを示し、リアルな避難行動につなげる工夫が重要です。

多国語表記の例



津波避難誘導／ 静岡県 伊東市
W900×H1400mm【D-HS-123】

定期的なメンテナンスと更新も大切

路面標示は災害時の避難誘導に有効ですが、劣化によって視認性が低下すると、その役割を十分に果たせなくなるため、メンテナンスすることが求められます。

また 避難所の移転や周辺環境・防災計画の変更に合わせて、内容の見直しも必要です。対象地域の環境に適した避難誘導を行うために、定期的な点検と更新が欠かせません。こうした維持管理は、地域の安全と住民の信頼を支える重要な取り組みです。



施工事例



津波避難誘導 / 静岡県 静岡市
W1000 × H2000mm 【 D-HS-57D1 】



津波避難誘導 / 千葉県 大網白里市
W900 × H1400mm 【 D-HS-220 】



地震対策車線 / 新潟県 刈羽村
W900 × H2400mm (1文字)



減災学習シート / 静岡県 静岡市
W600 × H900mm 【 D-注-127他 】



避難路誘導 / 宮城県 七ヶ浜町
W1000 × H1000mm(1文字) 【 DM-934 】



対空標示 / 山形県 金山町
W2000 × H2000mm (1文字)

まとめ

南海トラフ地震は、私たちの暮らしに大きな影響を与える可能性のある災害です。その被害を少しでも減らすためには、政府や自治体の対策だけでなく、一人ひとりの備えが欠かせません。

道路という社会の基盤を支える私たちも、災害時の避難誘導や復旧支援の一助となるべく、日頃から安全を見つめ直し、できることを積み重ねています。地域の安心を守る一員として、今後も防災意識を高め、未来につながる取り組みを続けてまいります。



距離測定が簡単にできる
ウォーキングメジャー

トルメータースーパー

長距離から短距離まで距離測定が正確かつ簡単にできるウォーキングメジャーです。

POINT 1

手元でリセット操作

使いやすいピストル型グリップで
ブレーキ操作、カウンタリセットが
手元で可能です。



POINT 2

長距離測定に最適

大型車輪により安定した長距離測定
が可能で、測定途中で直立できる
スタンドがついてます。



POINT 3

コンパクトに収納

持ち運びや収納に便利折りたたみ式です。
ワンタッチで折りたたむができます。



クイックシート 溶融タイプ 受取り後のお願い

クイックシート溶融タイプの受取り後、すぐに梱包ダンボールを開封して、シートの状態の確認をお願いします。
シートの軟化、段ボールへの貼りつきが無ければ、直射日光を避け、立て掛けずに涼しい場所で保管してください。

クイックシート 溶融タイプ 施工直前の注意点



直射日光厳禁

クイックシート溶融タイプは直射日光が当たる環境下では、段ボールとシート、またはシート同士が貼付く恐れがあります。

- 直射日光を避け涼しい所に保管して下さい。
- 高温の路面には、直接シートを置かないで下さい。

[発行]

サンコー企画株式会社

〒929-0447 石川県河北郡津幡町字旭山11番地2

Tel:076-289-6708 Fax:076-289-7992

E-mail:sanko@sanko-kikaku.com

URL:http://www.sanko-kikaku.com

ご注文・お問い合わせ